

ヤングケアラー実態調査の実施について

1. 目的

潜在化しているヤングケアラーの存在及び実態を把握するため、ヤングケアラー実態調査を行う。併せて、ヤングケアラーが担っているケアの状況、悩みごと、支援ニーズ等を把握し、必要な施策に反映する。

2. 調査対象及び人数

(1)市立小学校 16校の4年生から6年生：3,502人

内訳 小学4年生：1,117人

小学5年生：1,224人

小学6年生：1,161人

市立中学校 11校及び私立中学校 1校の1年生から3年生 計 3,808人

内訳 中学1年生：1,275人

中学2年生：1,279人

中学3年生：1,254人

(2)埼玉県立高校（2校）及び私立高校（2校）の1・2年生 計 2,588人

内訳 高校1年生：1,334人

高校2年生：1,254人

(3)教職員・養護教諭

内訳 小学1年～3年の担任：113人

養護教諭（小学校）：16人

3. 調査期日

(1)小中学生：令和3年7月7日（水）～7月16日（金）

※私立中学校の中学生は高校生と同時期に調査

(2)高校生：チラシ配布の日～7月31日（土）

(3)教職員等：令和3年7月7日（水）～7月16日（金）

4. 調査方法

(1)小・中学生 ※私立中学校の中学生は、高校生の調査方法に準じる

①調査の目的や注意事項を記載したチラシを精読する。

②チラシに貼付したQRコードをかざして、各自のタブレット端末からロゴフォームにアクセスする。

③ヤングケアラーの理解を深めるための動画を視聴した後、アンケートに答える。

(2)高校生

学校を通じ、ロゴフォームへのアクセス方法や回答について掲載したチラシを配布し、各自のスマートフォンからロゴフォームにアクセスし、アンケートに回答する。

(3)教職員等

教職員用タブレットからロゴフォームにアクセスし、アンケートに回答する。

5. 調査項目

別添の「ヤングケアラー実態調査項目【小学校4年生から6年生編】【中学生編】【高校生編】【教職員編】」のとおり

6. 予算

調査結果の分析及び助言に対する学識者への謝礼

03 民生費 02 児童福祉費 01 児童福祉総務費 2749 地域子ども・子育て支援事業
08 報償費 01 報償費 48,000 円（積算：12,000 円×4 回）

7. 集計・分析

- ・ロゴフォームの集計機能により、単純集計を行う。
- ・埼玉県が行った統計方法を参考にクロス集計を行い、調査結果の分析を行う。
- ・学識者の知見をもとに分析し、報告書を作成する。

8. スケジュール・役割分担

月 日	内 容	担当課
5月下旬～6月中旬	調査項目の検討	こども支援課 学校教育課
6月上旬	ロゴフォーム申請 アンケート作成開始	こども支援課
6月16日	県との調整	こども支援課
6月中旬	動画制作	こども支援課
6月下旬	アンケート完成・動作確認 実施起案	こども支援課
7月5日	校長会への報告 ※資料7/2まで 47部用意	こども支援課
7月上旬	各校へアンケート依頼・チラシ配布	こども支援課 学校教育課
7月7日～16日	調査実施 ※私立中学校、高校は、7/31日まで	学校教育課 こども支援課
8月下旬	集計・報告書作成	こども支援課
9月	公表	こども支援課

入間市ヤングケアラー実態調査

調査へのご協力をお願い

- ◎入間市では、ヤングケアラーの方々を支援していくための対策を進めるため、実態調査を行うこととしました。調査結果は、今後のヤングケアラー支援施策のために活かしてまいります。
- ◎できるかぎり多くのご意見を把握したいと考えております。ぜひご協力をお願いします。

「ヤングケアラー」とは・・・

本来、大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の若者のことを指します。

《こんな人がヤングケアラーです（イメージ）》



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

出典 ©一般社団法人日本ケアラー連盟

回答方法

◎調査対象：小学4年生から高校2年生までの児童・生徒に調査を行います。中学校では、すべての中学生に調査を行います。

◎回答方法：各自のタブレットから、ネットアンケートに回答してください。

◎アンケートの手順

- (1)QRコード読み取りアプリから、右記のQRコードを読み取ります。
- (2)ヤングケアラーについての動画を視聴します。
- (3)順番どおりに質問に答えます
- (4)確認ボタン→送信ボタンを押して終了です。



裏面もお読みください。

この調査に関するお知らせ

- ◎調査は無記名で行います。回答は自由です。回答しなくてもあなたに不利益は全くありません。
- ◎答えにくい質問には、無理のない範囲で回答してください。
- ◎回答は集計後に速やかに処分します。
- ◎回答はデータとして統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。
- ◎集計結果は市のホームページなどで公表します。

(お問い合わせ先)

入間市こども支援部こども支援課こども政策室担当

電話：04-2964-1111 内線 2342 月～金（祝日を除く）8：30～17：15

メール：ir341011@city.iruma.lg.jp

〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号

	12. その他 ()
質問5	あなたがお世話をする理由はなぜですか。(いくつ選んでも構いません。) ※
回答	1. 親の病気や障がい、心の病気、入院のため 2. 親が仕事で忙しいため 3. ひとり親家庭であるため 4. 幼いきょうだいがいるため 5. 祖父母が病気や高齢のため 6. きょうだいに障がいがあるため 7. 親が家事をしないため 8. 親にとって日本語が使いやすい言語でないため 9. ヘルパーなどを利用していないため 10. 他にお世話をできる人がいないため 11. お世話をしたいと自分で思っているため 12. ヤングケアラーではない／お世話をしていない 13. その他 ()
(設定)	質問3～5の各質問で「いない」「ヤングケアラーではない／お世話をしていない」を選んだ人は質問13へ進む。
質問6	お世話を一緒にしている人は誰ですか。(いくつ選んでも構いません。) ※
回答	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. 姉や兄 6. 妹や弟 7. 親戚 8. 福祉サービスの人 (ヘルパーなど) 9. 近所の人 10. 自分ひとりだけ 11. その他 ()
質問7	あなたはどのくらいお世話をしていますか。 *
回答	1. 毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日 5. 1か月に数日 6. その他 ()
質問8	学校のある平日にお世話を何時間していますか。 *
回答	1. 1時間未満 2. 1時間以上2時間未満 3. 2時間以上4時間未満 4. 4時間以上6時間未満 5. 6時間以上8時間未満 6. 8時間以上
質問9	休日にお世話を何時間していますか。 *
回答	1. 1時間未満 2. 1時間以上2時間未満 3. 2時間以上4時間未満 5. 6時間以上8時間未満 6. 8時間以上

	4. 4時間以上6時間未満
質問 10	お世話をしている結果、自分の生活にどのような影響が出ていると思いますか。(いくつ選んでも構いません。) *
回答	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学校を休むことが多くなっている 2. 学校への遅刻が多くなっている 3. 部活ができない 4. 勉強をする時間がない 5. 授業に集中できない 6. 成績が落ちた 7. 友達と遊べない 8. まわりの人と話が合わない 9. お世話について話せる人がいなくて、自分だけだと感じる 10. ストレスを感じている 11. 睡眠不足 12. 体がだるい 13. 自分の自由時間がない 14. ご飯をしっかり食べられない 15. 進路について考える余裕がない 16. 特に影響はない
質問 11	お世話の悩みや不満を話せる人はいますか。 *
回答	<ul style="list-style-type: none"> 1. いる 2. いない <p>(いる場合：その人はどなたですか。)(いくつ選んでも構いません。) *</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 母親 2. 父親 3. きょうだい 4. 祖母 5. 祖父 6. 親戚 7. 友達 8. 担任の先生 9. 保健室の先生 10. 学校の相談員 11. 福祉サービスの人 (ヘルパー、ケアマネージャー) 12. 医師や看護師、病院の人 13. 近所の人 14. SNS上での知り合い 15. その他 ()
質問 12	お世話のことで、あったらいいと思うサポートは何ですか。(いくつ選んでもかまいません。) *
回答	<ul style="list-style-type: none"> 1. 家族の病気が悪くなった時など、困った時に話せる人や場所 2. 学校で宿題や勉強を手助けしてもらえること 3. 自分がお世話をしている相手の病気や障がいについてわかりやすく説明してもら

	<p>えること</p> <p>4. ヘルパーなどの情報を教えてもらえること</p> <p>5. 福祉サービスの人に会って話をするができること</p> <p>6. 自分の代わりに家事やお世話をしてくれる人がいること</p> <p>7. 信頼して見守ってくれる大人がいること</p> <p>8. 学校の先生や友達がヤングケアラーについて知り、よく理解できる機会があること</p> <p>9. 自分の将来のことを話せる場所があること</p> <p>10. 自分の自由時間が増えるような手助け</p> <p>11. 家庭への経済的な支援</p> <p>12. わからない</p> <p>13. 特にない</p> <p>14. その他 ()</p>
質問 13	あなたの健康状態を教えてください。※
回答	<p>1. よい</p> <p>2. まあよい</p> <p>3. ふつう</p> <p>4. あまりよくない</p> <p>5. よくない</p>
質問 14	あなたは平日に、家でどのくらい勉強していますか。※
回答	<p>1. 15分未満</p> <p>2. 15分以上30分未満</p> <p>3. 30分以上1時間未満</p> <p>4. 1時間以上2時間未満</p> <p>5. 2時間以上3時間未満</p> <p>6. 3時間以上</p>
質問 15	あなたは今の生活に満足していますか。※
回答	<p>1. 満足</p> <p>2. どちらかと言えば満足</p> <p>3. ふつう</p> <p>4. どちらかと言えば不満</p> <p>5. 不満</p>
質問 16	ヤングケアラーに関して意見や感想、困っていることをお書きください。
回答	



ヤングケアラー実態調査 調査項目

【小学校教職員等編】

「※」がついている質問は必須のものです。

「*」がついている質問は該当者のみ必須のものです。

質問1	あなたの役職を教えてください。※
回答	1. 1年生の担任 2. 2年生の担任 3. 3年生の担任 4. 養護教諭
質問2	あなたは今回のアンケート以前から「ヤングケアラー」を知っていましたか。※
回答	1. 知らなかった 2. 聞いたことはあるが、具体的には知らない 3. 聞いたことがあり、講習会等に参加したことがある 4. 知っており、「ヤングケアラー」の対応をしたことがある
質問3	ヤングケアラーの定義を見て、現在、あなたの担当するクラス等にヤングケアラーと思われる子ども（可能性も含めて）はいますか。※
回答	1. いる 2. いない 3. わからない (いる場合：また、何人いますか。) * ____人
質問4	(いる場合) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。特に印象に残る子ども1人についてお答え下さい。(複数選択可) *
回答	1. 障がいや病気のある家族の代わりに家事（食事の準備や後片付け、料理、洗濯、掃除、買い物など）をしている 2. 家族の代わりに幼いきょうだいの世話をしている 3. 家族の代わりに障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている 4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている 5. 見守りが必要な家族の外出時の付き添いをしている 6. 家族の通訳や、書類や手紙の説明をしている 7. アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している 8. 病気の家族の看病をしている 9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている 10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている 11. その他（ ）
質問5	(いる場合) ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部（市の教育委

	員会など) に支援をつないだケースはありますか。*
回答	<p>1. ある</p> <p>2. ない</p> <p>(ある場合) どこにつなぎましたか。(複数選択可) *</p> <p>1. 市の教育委員会</p> <p>2. 市の福祉部門 (要対協の調整機関を除く)</p> <p>3. 市の保健部門</p> <p>4. 市の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門</p> <p>5. 教育センター (適応指導教室)</p> <p>6. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設</p> <p>7. 児童相談所</p> <p>8. 民生委員</p> <p>9. 病院</p> <p>10. 警察や刑事司法関係機関</p> <p>11. その他 ()</p>
質問6	(いる場合) ヤングケアラーと思われる子どもの状況をどのように把握していますか。(複数選択可) *
回答	<p>1. 家庭訪問をしている</p> <p>2. 個別面談をしている</p> <p>3. 養護教諭や校長・教頭が話を聞くようにしている</p> <p>4. 児童・生徒から直接相談される</p> <p>5. 他の児童・生徒や保護者から相談される</p> <p>6. 近所の人から相談される</p> <p>7. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って対応している</p> <p>8. その他 ()</p>
質問7	ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(複数選択可) ※
回答	<p>1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること</p> <p>2. 教職員等がヤングケアラーについて知ること</p> <p>3. 保護者等がヤングケアラーについて知ること</p> <p>4. 学校全体でヤングケアラーについての理解を深めること</p> <p>5. 学校にヤングケアラーと思われる児童・生徒が何人いるか把握すること</p> <p>6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの専門職の配置が充実すること</p> <p>7. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること</p>

	8. 子ども同士でケアについて話す機会があること 9. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること 10. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること 11. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること 12. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること 13. 特にな 14. わからない 15. その他（ ）
質問8	ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。
回答	
	アンケートにご回答いただきありがとうございました。今後の施策に活かすために、ご協力いただける場合は学校名などをご記入ください。別途ご連絡させていただくことがあります。
質問9	学校名を教えてください。
回答	
質問10	連絡先を教えてください。
回答	電話番号： メールアドレス：